



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
北海道支部

赤十字 ほっかいどう

もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。



7月31日（火）～8月2日（木）、函館市で青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（道南会場）が開催されました。

写真は、三角巾を使った手当ての仕方を学ぶ青少年赤十字メンバー。

目次・・・

- 道内各地でトレーニング・センター開催 --- 2P
- 赤十字災害救援車「博愛号」引渡式 - - - - 3P
- 平成29年度事業報告 - - - - - 4P・5P

- バングラデシュ南部避難民救援活動 - - - 6P
- わが町の赤十字奉仕団 - - - - - 7P
- 健康生活支援講習を地域コミュニティへ - - 8P

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター開催

～道内4会場でリーダーシップを学ぶ～

青少年赤十字(以下JRC)の最も特徴的な教育プログラムにリーダーシップ・トレーニング・センター(以下トレセン)があります。トレセンとは、赤十字の基本原則や国際人道法などを通じて人道的な価値観を身につけるとともに、集団生活の中でリーダーシップを学びます。

7月から8月にかけ、道内4会場で開催し、青少年赤十字加盟校21校からJRCのメンバー97名と指導者67名が参加しました。

道央会場:札幌市

8月2日(木)～3日(金)、札幌市内のJRC加盟校6校から25名のメンバーが参加しました。

道央会場では、「はじめての青少年赤十字」とテーマを称し、初参加の児童・生徒にもわかりやすく、JRCの実践目標である「奉仕」「健康・安全」「国際理解・親善」の理解を深めるほか、フィールドワークや三角巾を使った手当てを学びました。



フィールドワーク



ワークショップ「非常持ち出し品」の発表

道北会場:旭川市

7月27日(金)、上川管内の中学校を中心にJRC加盟校5校から18名のメンバーが参加しました。

道北会場では、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」のワークショップを行い、災害時に持参する「非常持ち出し品」の取捨選択を行うと同時に、積極的に意見を出し合える関係作りや協力することの大切さを学びました。



火起こしを行うメンバー

道南会場:函館市

7月31日(火)～8月2日(木)、函館市内を中心としたJRC加盟校5校から32名のメンバーが参加しました。

道南会場では、炊事活動を行い実際に、虫眼鏡などを使って火起こしから始め、カレーライス作りに挑戦しました。

また、フィールドワークのほか、賛助奉仕団による道南地域における自然災害の講義も行われ災害に対する備えについても理解を深めました。

道東会場:北見市

8月6日(月)～8日(水)、北見市・根室市内を中心にJRC加盟校5校から22名のメンバーが参加しました。

道東会場では、日本赤十字北海道看護大学 尾山 とし子 教授を迎えて、「防災ゲーム」を行い、減災に対する心構えを学習するとともに、避難所で使用できるダンボールベッドの組み立てを体験しました。

この他、「献血セミナー」も行われ、献血からまかなわれる、輸血用血液製剤の重要性を学びました。



ダンボールベッドの寝心地を確かめるメンバー

赤十字運動月間イベント

毎年5月は、赤十字運動の普及を目的とした「赤十字運動月間」を全国的に展開しており道内各地でもイベントが行われました。

北海道支部では、北海道庁を会場にパネル展を開催、赤十字活動紹介パネルの展示や健康生活支援講習紹介コーナーを設け、毛布ガウンの作り方など来場者へ紹介しました。

あわせて、旭川・伊達・釧路・浦河・清水・函館の赤十字病院では、血液センターや地区・分区、地元の各赤十字奉仕団の協力のもと、フェスティバルを開催したたくさんの来場者で賑わいました。

また、7月には北見・栗山・小清水・置戸の赤十字病院でフェスティバルを開催し、赤十字活動をより多くの方に知っていただく機会となりました。



内視鏡操作体験(清水赤十字病院)



五稜郭タワー ライトアップ
(函館赤十字病院・日赤函館市地区ほか)

親子で学ぶとっさの手当て

5月13日(日)の母の日に北海道支部を会場に「親子で学ぶとっさの手当て」を開催しました。

当日は、12家族 総勢29名の皆さんに参加いただき、札幌市救急法赤十字奉仕団の協力のもと、笑顔や笑い声で溢れ和やかな雰囲気の中、AEDを使った心肺蘇生法や気道異物除去、止血法などを実際に体験していただきました。

参加者からは、「とても勉強になった」や「子どもと一緒に応急手当を学べて良かった」など感想をいただき楽しく救急法を学んでもらうことが出来ました。



心肺蘇生法の体験

赤十字災害救援車「博愛号」引渡式

7月10日(火)、赤十字災害救援車「博愛号」の引渡式を北海道支部で開催しました。

当車両は、災害発生時に毛布などの救援物資の運搬や避難所間の情報伝達などで活躍する車両で、今年は10市町村に配備しました。

今回、配備される10台のうちの1台はよつ葉乳業株式会社様より寄贈いただきました。同社は、平成9年より毎年寄贈いただいており今年度で29台目となります。

今年度、配備した市町村は下記のとおりとなっています。

| | | |
|------|-----|---------|
| 新篠津村 | 真狩村 | むかわ町 |
| 東神楽町 | 占冠村 | 雄武町 |
| 浦幌町 | 利尻町 | 釧路町 夕張市 |



ゴールドキーを手渡す「よつ葉乳業(株)」取締役執行役員
管理統括部長 畑山昭典 様(右)

平成29年度のご協力ありがとうございました

平成29年度はみなさまから4億3,715万4,563円のご協力をいただきました。
まことにありがとうございました。
みなさまからいただいた活動資金をもとに行なった主な事業を報告いたします。
なお、6月に行なわれた平成30年度第1回評議員会にて平成29年度の
一般・医療・血液・福祉それぞれの事業報告及び
歳入歳出決算が承認されました。

広報 18,811,388円

- イベント開催・参加 9回
- 道内赤十字病院での赤十字フェスティバル 10会場
- チラシやポケットティッシュなど広報資材の作成
- 支部ホームページ・フェイスブックの運用



イベントでの心肺蘇生法の普及

赤十字社員(会員または協力会員)の加入促進 38,913,944円

- パンフレットや領収書などの募集用資材の作成
- 担当者研修会の開催
- 日本赤十字社北海道支部創立130周年記念赤十字大会



赤十字大会での表彰

医療事業・看護師育成 18,385,038円

- 個人や法人から赤十字病院に対しての寄付による事業
- 看護師養成事業の運営管理費

青少年赤十字事業 8,078,447円

- 子どもたちの宿泊型研修
- 活動への助成
- 教員等の研修(本社等主催)
- 教員等の研修(支部主催)



廃材を利用した積み木タワー作成

活動の運営管理費 140,818,887円

- 赤十字会館等の維持費 ○血液事業の運営管理費
- 職員の人事費 ○社会福祉事業の運営管理費

※赤十字はボランティアが中心となって活動していますが、事業が円滑に進むよう専任の職員がボランティアとの調整や救援物資・資材の調達、訓練や講習会などを初めとする事業の企画・立案・調整・報告などを行っています。

運営管理費にはこれら職員の人事費を含め、社屋の維持管理費・諸税などが含まれています。

災害救護・国際活動

107,893,949円

- 災害救護訓練の実施・参加 12会場
- 災害救護のための各種研修 9会場
- 防災教育事業の普及 24会場
- 災害救援車両の市町村への配備 10台
- 災害用天幕の市町村への配備 10台
- 災害用炊き出し釜の市町村への配備 10台
- 毛布や緊急セットの配備
- カンボジアなど3カ国への救急法等普及事業への支援



赤十字災害救護訓練



こころのケア要員研修会



赤十字災害救援車「博愛号」

救急法などの普及

8,199,485円

- 救急法講習会 418回
- // 指導員養成講習 1会場
- // 指導員研修会 9会場
- 水上安全法講習会 97回
- // 指導員研修会 2会場
- 雪上安全法講習会 53回
- // 指導員研修会 2会場
- 健康生活支援講習会 44回
- // 指導員研修会 6会場
- 幼児安全法講習会 79回
- // 指導員養成講習 1会場
- // 指導員研修会 6会場
- 健康増進セミナー 1回



指導員研修会の開催



健康増進セミナー

奉仕団等の支援

96,053,425円

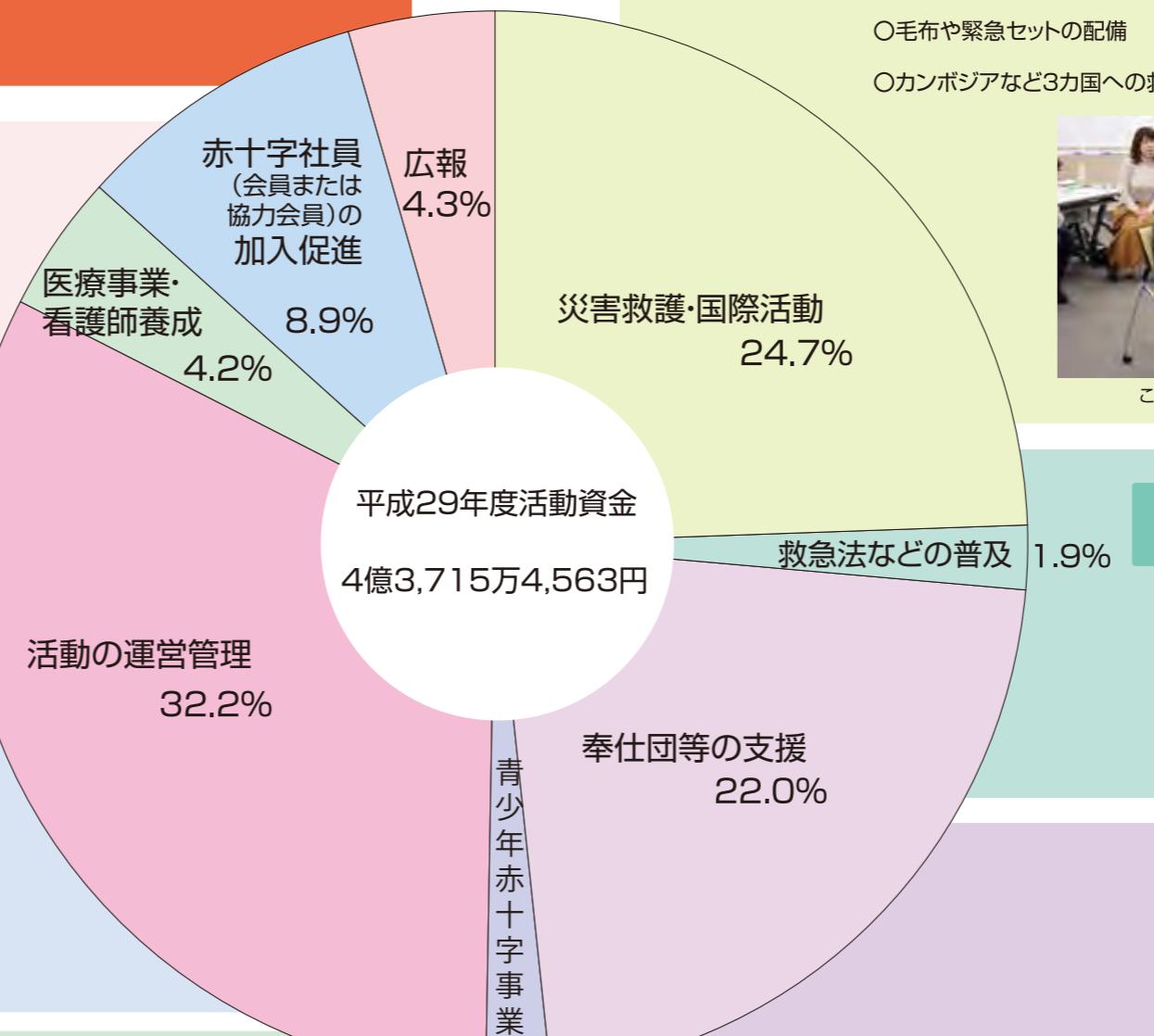
- 基礎研修会 8回
- 中級研修会 5回
- 防災などの研修会 40回
- 奉仕団の活動への助成 60件
- 奉仕団の研修への助成 24件



研修会での防災マップ作り



地域の防災訓練での炊き出し



わが町の赤十字奉仕団

札幌市点訳赤十字奉仕団は、昭和33年に北海道点訳奉仕団としてスタートし、今年、創立60周年を迎えます。

団員数は平成30年4月1日現在、75名、私達の活動は、その名のとおり、点訳図書を作成することです。

まず、膨大な図書の中から点訳する本を選ぶ、次に、点訳のルールに従い、誤字脱字等のないよう正しく点字に移し替えていく自宅でのパソコン入力作業、そして、2回の校正を経ての完成。

奉仕団としての活動は週1回、3班に分かれて、曜日ごとに集まる例会です。

この中で各自の自宅作業での疑問点、不明点などを持ち寄り、調べたり、相談や検討を行います。

また、点訳希望者の養成研修も行っています。

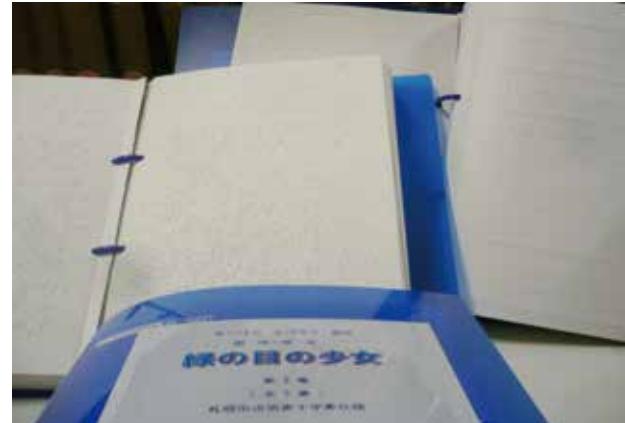
平成29年度は、サピエ図書館(視覚障害者のための点字・音声などによる情報提供ネットワーク)に114冊を登録、また、個人からの依頼により30冊を点訳しました。

読んでくださる方々に思いを馳せながら、これからも日赤点字図書センターのご指導のもと、団員相互に協力し合い、息の長い活動を続けていきたいと思っています。

委員長 鎌田 紀子



点字校正



完成した点字図書

金色有功章 ~社資納入額50万円以上~

- 【函館市】 吉田 照江
- 【釧路市】 阿部 裕子
- 【釧路市】 学校法人 緑ヶ岡学園高等部同窓会
- 【支 部】 長谷川 貴一
- 【支 部】 中島 澄夫

銀色有功章 ~社資納入額20万円以上~

- 【函館市】 久米整形外科
- 【函館市】 (株)近藤商会
- 【釧路市】 掛札 隆
- 【釧路市】 (株)トーテック
- 【釧路市】 三和薬品株式会社
- 【釧路市】 大友造園建設株式会社
- 【帶広市】 田中 綾乃
- 【帶広市】 窪田 信子
- 【根室市】 野田 智子
- 【支 部】 長崎 史子
- 【支 部】 吉田 美智子
- 【支 部】 札幌創成高等学校

たくさんのご協力
ありがとうございました。

～活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します～
(敬称略)

社長感謝状 ～金色有功章受章後さらに50万円以上～

- 【函館市】 今 千尋
- 【函館市】 公益財団法人 杉崎福祉財団
- 【函館市】 木村 達
- 【函館市】 函館山ロープウェイ株式会社
- 【函館市】 財団法人 相馬報恩会
- 【函館市】 佐藤 ミエ
- 【函館市】 奥野 秀雄
- 【旭川市】 関谷 幸照
- 【釧路市】 釧路ソフトバレーボール連盟
- 【南幌町】 木村 修治
- 【支 部】 北海道竹和会
- 【支 部】 よつ葉乳業株式会社

バングラデシュ南部避難民救援活動

平成29年8月以降、ミャンマー・ラカイン州での暴力から69万人がバングラデシュへ避難しています。

日本赤十字社では、国際赤十字の要請に基づき避難民救援のため同年9月からバングラデシュ南部の避難民キャンプに医療チームを派遣していますが、このチームの一員として道内より旭川赤十字病院並びに北見赤十字病院の職員を各1名ずつ、現地へ派遣しています。

ここでは、現地で活動してきた2人の体験談をご紹介します。

北見赤十字病院 看護師 上岡 文

平成29年10月20日～11月30日までの約6週間、第2班メンバーの一人として活動してきました。

子ども達や家畜は道端で排泄し、無計画に作られたトイレは汚物があふれかえり、井戸の近くに作られているところもあって、避難民の暮らす環境は劣悪なものでした。

このような環境の中、仮設診療所を数カ所作り巡回し累計5,808名(240名／日)の診療を行いました。

下痢や呼吸器感染症など環境により広まる疾病に対応しつつ、避難民のために何ができるかをチームで考えながら活動しました。

また、暴行されて妊娠の可能性がある14歳の少女、夫に連日DVを受けている女性、両親を亡くし低栄養で生死をさまよう幼児など、胸が痛くなるような事例と向き合うたびに非力さを痛感しました。

今回は急な派遣にも関わらず送り出していただいた病院職員、皆さまのおかげで貴重な体験を得ることができました。

今後も国際救援活動に貢献していきたいと思います。



旭川赤十字病院 看護師 村住 英也

私は第5班で平成30年2月16日～3月22日までの5週間、活動してきました。

下痢や脱水、呼吸器疾患、骨折や感染症など毎日100人以上の患者が診察に訪れました。

活動内容は難民キャンプ地の診療介助だけではなく、資機材・薬剤の管理、手術運営、教育活動など多岐にわたり、毎日23時まで仕事をしていました。

宿泊先は2畳ほどしかないテント生活で蚊やネズミが多く出る場所で決して衛生的な生活環境ではありませんでした。

日中は35度を超える砂ぼこりの立ち込める中での活動は精神的にも肉体的にも大変過酷な環境でした。

また、高度な医療設備はなく聴診器と体温計と血圧計だけで、乳幼児から重症患者まで必死に治療していく毎日でした。

日本とは違う医療の在り方や世界で起こっている悲しい出来事を目のあたりにしてこれから自分がどのように看護師としてるべきか考えさせられる貴重な経験となりました。



初めてのインターンシップ受け入れ

日本赤十字社北海道支部点字図書センターでは、5月30日(水)・31日(木)の2日間、インターンシップの受け入れをしました。同センターがインターンシップを受け入れるのは、今回が初めてで北海道札幌視覚支援学校・高等部普通科3年の中村 翔綺さん(全盲)が参加しました。

受け入れにあたり、全盲の視覚障害であることを考慮し、実習前に、館内のカウンター・書架等の配置と自席からの位置確認、トイレまでの経路の説明など、安全確保に努めました。

実習では、「点字図書新刊案内」と「点字図書目録」の作成業務について集計データから点字化したデータの校正→点字プリント→製本まで一連の流れを体験してもらいました。

参加した中村さんからは、「利用者さまに少しでもお役に立てたことをうれしく思っています。今回の経験を学校生活に活かすのはもちろんのこと、将来、就職活動をするうえで役立てていきたいと思います」との感想も聞かれ充実した2日間となりました。



点字図書センター 岩間主査(左)から点字ディスプレイの仕方を教わる中村さん(右)

健康生活支援講習を地域コミュニティへ

7月4日(水)、「健康生活支援講習」の普及促進の一環としてセミナー「ちょっと、誰かに話したくなる健康のお話」を北海道支部で開催しました。

このセミナーは、超高齢化社会に対応するため「健康生活支援講習」を通して自宅や地域で自分らしく暮らすことができるよう、そして地域コミュニティでの「自助」・「共助」を考える一助になることを目的として開催したものです。

今回は、札幌市赤十字奉仕団 分団長57名に参加いただき、支部職員でもある健康生活支援講習指導員(看護師)から転倒予防や認知症、骨粗しょう症についての座学と実技の講義を行いました。

参加者からは、「話が聞きやすく大変良かった」や「ためになる内容だった」など感想をいただき笑顔や笑い声が飛びかう楽しい雰囲気の中、実施することが出来ました。



「じゃんけん」による脳トレーニング

大雨の災害に備えて ~赤十字災害救護訓練~

平成30年9月21日(金)～23日(日)、清水町・新得町を会場に「赤十字災害救護訓練」を実施します。

今回の訓練は、平成28年の台風10号大雨災害での経験を検証するため、当時の活動で明らかになった課題を反映して訓練を実施します。

また、自治体・消防・警察・自衛隊など、防災関係各機関との連携を含め、救護班の災害対応能力の向上を図ります。

訓練2日目の22日(土)は、赤十字奉仕団(防災ボランティア)や青少年赤十字メンバー等による炊き出し・配食訓練のほか、日本赤十字北海道看護大学 根本 昌宏教授による特別講演として「北海道型災害を!自分・家族・地域として考える~災害関連死から身を護るために~」を行ないます。

講演は、無料で聴講できますので、たくさんの方のご来場をお待ちしております。



昨年度の災害救護訓練の様子

発行日 平成30年9月1日



公式facebookで情報発信中!
<https://www.facebook.com/hokkaido.jrc>



日赤北海道 検索
<http://www.hokkaido.jrc.or.jp>

発行元  日本赤十字社 北海道支部 札幌市中央区北1条西5丁目 TEL: 011-231-7126